

❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁
メールニュース12月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁

2015. 12. 22

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信しています。配信不要の方はお手数ですが plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

-----● 年末・年始のリソースご提供について ●-----

当センターの業務を12月29日（火）より1月3日（日）まで休業させていただきます。新年は1月4日（月）より通常どおりの業務を開始致します。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。

-----● 植物培養細胞株のご提供について ●-----

寒天培地上で維持する細胞株（カルス）は増殖速度が遅く、提供準備に時間がかかります。研究上のご都合等あるかと思いますが、ご関心のある株がありましたら時間的な余裕を十分もってご相談いただければ幸いです。特に年度末はご使用の予算の締切りに応じた早めの対策をお願いします。

-----● リソース寄託のご相談について ●-----

年度末に異動や退官を控えていらっしゃる方、大学院を卒業（修了）予定の方もいらっしゃると思います。大切なご研究の成果が失われないよう、ぜひ当室への寄託をお考えいただければと思います。論文で発表済みまたは発表予定の変異体や多重遺伝子破壊株をお持ちでしたら、plant@brc.riken.jp までご一報ください。手続きについてご説明致します。

---● テクニカルサポート (No. 20) : ミナトカモジグサの形質転換用カルスについて●
ミナトカモジグサは、シロイヌナズナと同様に実験室内で栽培でき、ライフサイクルが3-4ヶ月と短いことから、遺伝子組換え技術を利用して単子葉植物の研究を促進できるものと考えられます。しかしながら、ミナトカモジグサの形質転換は未熟胚から誘導した embryogenic callus を用いるため、組織培養の一連の操作に加えて、embryogenic callus の誘導に適した大きさの未熟胚を選別する必要があります。また、誘導した embryogenic callus は培養日数に比例して再分化率が低下するため、新たな未熟胚から embryogenic callus を誘導し続けなければなりません。

そこで当室では、ミナトカモジグサ Bd21 株の形質転換用カルスの提供を先月開始しました。ご依頼いただければ、そのまま形質転換にお使い頂ける embryogenic callus を2週間程度でお手元にお届けします。ぜひご利用ください。

<http://epd.brc.riken.jp/ja/archives/3571>

この他にも、Bd21 株の種子や完全長 cDNA クローンの配布、栽培や形質転換に関する技術研修を行っております。

<http://epd.brc.riken.jp/en/brachypodium>

ご質問やご要望がある方はお気軽に plant@riken.jp までご連絡ください。また技術資料をホームページより公開しておりますのでご活用ください。

http://epd.brc.riken.jp/ja/manual/brachypodium_distachyon_howto

新たな実験系が皆様の研究のお役にたてば幸いです。

●-----●
● 利用者の皆様へ ●-----●

2015年も残すところ1週間となりました。本年も利用者の皆様よりご理解とご協力をいただき、たいへんありがとうございました。新年もどうぞよろしくお願い致します。

❀*:・'° ❀° '・*:.. ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://epd.brc.riken.jp/>

❀*:・'° ❀° '・*:.. ❀.:*:・'° ❀。.:*:。.:*❀